

2023(令和5)年度 尚絅学院大学 AI データサイエンス教育プログラム に係る自己点検・評価書

尚絅学院大学 情報教育推進委員会

<学内からの視点>

(1) プログラムの履修・修得状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目であり教務部委員会において単位修得状況を把握している。情報教育推進委員会において、授業の内容や運営及び質向上に向けて取り組みを行っている。初年次教育の位置づけで開設しており、不合格の場合は、不合格者対象に隔年で特別開講を行うなど早い段階で修得できるよう対応している。

(2) 学修成果

尚絅学院大学で作成している「成績評価のガイドライン」に基づき、シラバスでは科目の到達目標を明示している。毎回、授業の内容に関連した小テストやミニッツレポートを課すことで学生の理解度を図りながら到達目標をクリアできるよう取り組んでいる。

プログラムの学修成果は、単位修得率及び平均 GPA 並びに成績分布状況を確認することで点検・評価が可能である。さらに、令和5(2023)年度後期からは、学修成果可視化システムを導入し、学修状況の可視化に努めており、授業評価アンケートにおいては、学生自身が到達目標に対しどの程度修得できたのか自己評価を行うことを実施し、多面的に学修成果を把握することができる。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和5年度開講の「AI 社会とデータサイエンス」で実施した授業改善アンケート結果において(1年生・人文社会以外の全学類開講)、「授業の到達目標に示された内容(知識や技能など)が身についたと思いますか」の問いに対して5段階評価で「そう思う」「ややそう思う」との回答が約9割を占め、学生から高い評価を得ている。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目となっている。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類1年生の必修科目となっている。

<学外からの視点>

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

進路就職課において全学類の卒業生について就職先の調査を行っている。AI 社会とデータサイエンス科目の開始は令和2年度であり、本プログラムの開始は令和4年度である。本プログラムの修了者が社会に出るのは令和7年度以降となる見込みであるが、卒業調査においても可能な範囲で活躍状況及び企業の評価について調査する予定である。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

尚絅学院大学外部評価委員会において、地元産業界よりデジタル人材の深刻化と、Excel や Word などの特定の技術だけではなく、デジタル技術を複合的に活用できる人材が必要であることが話題として出された。本学としては、卒業時まで「IT パスポート」を取得して社会へ送り出すことを目標としており、教養教育科目において「AI 社会とデータサイエンス」及び「情報リテラシー」を必修科目として開設し、全学的にデジタル教育を実施している。

- 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業では、学生が身近に感じられる事例（e コマースの推薦システムやスマートフォンの顔認証など）の紹介や、ニューラルネットワークによる文字認識のデモ体験等の演習を通じて、AI やデータサイエンスへの関心を高める工夫をしている。特に、学生自身のデジタル体験と結びつけることで、技術の社会的影響や将来性について考える機会を提供している。

データ分析の実習では、オープンデータを活用し、データ分析スキルの習得を目指している。Excel を用いた基礎的なデータ処理から始め、段階的により複雑な分析手法へと進む構成により、学生が無理なく技術を習得できるよう配慮している。各自の興味に応じたテーマでデータ分析プロジェクトに取り組む機会も設け、主体的な学びを促進している。

- 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業の質を全学的に均一化するため、情報教育推進委員会が中心となって標準的な教材パッケージを開発・提供している。このパッケージには、詳細な授業計画、スライド教材、実習用データセット、課題例が含まれており、担当教員の経験や専門分野に関わらず、一定水準以上の授業を実施できる体制を整えている。

また、発展が目覚ましい AI 技術の進展や社会動向を反映した更新を行っている。特に、生成 AI ツールの急速な普及を踏まえ、その特性や活用方法、倫理的な配慮事項についても適切に取り上げている。